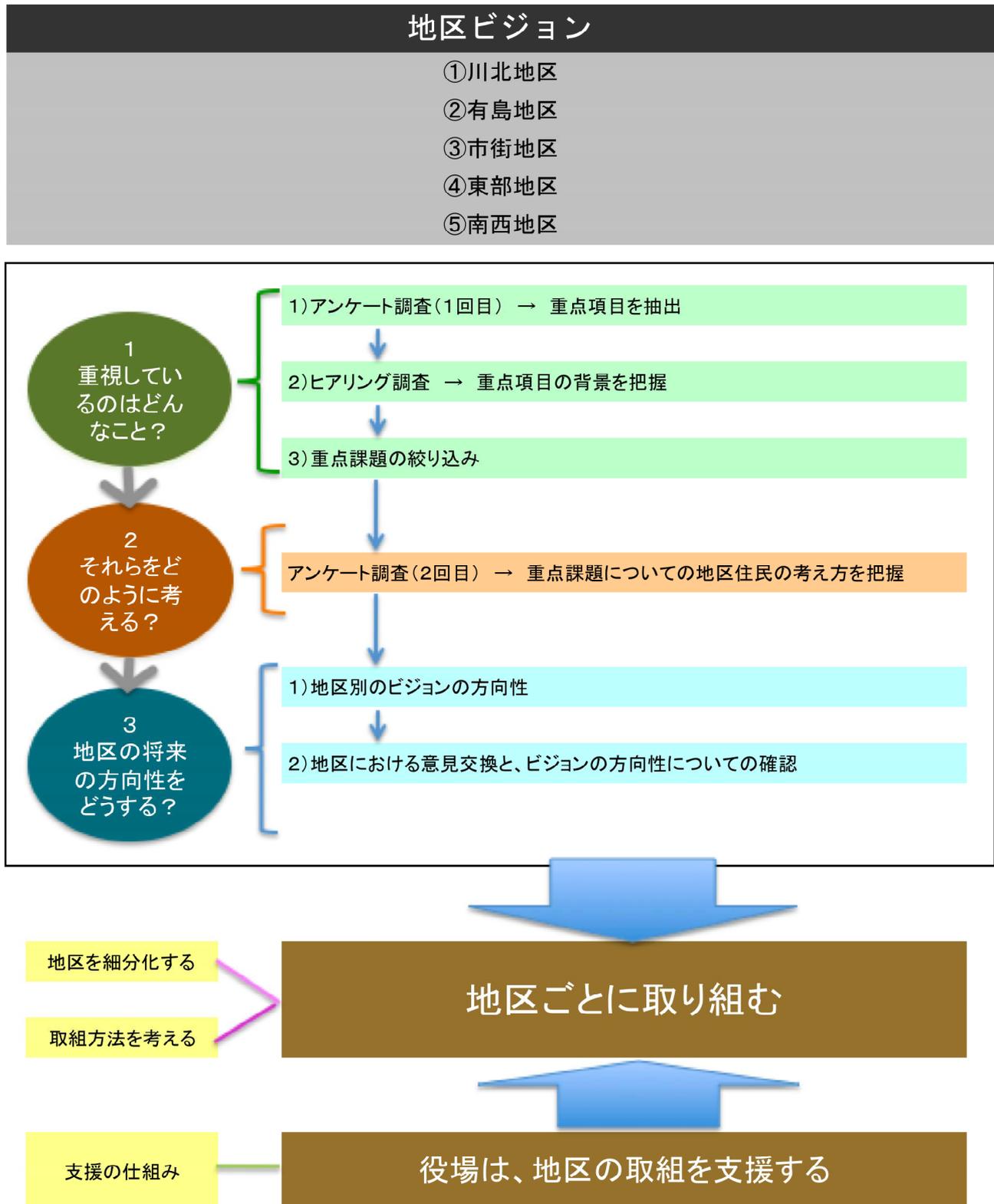

V. 地区別ビジョン

4：地区ビジョン（地区別構想）

地区ビジョンは、次の考え方によって構成されます。



4-1. 川北地区（ニセコ、曽我）

川北地区 将来の方向性

自然環境と産業(農業・観光)の調和を目指す

川北地区は、農業と観光が共存する地区です。産業を支えるためには自然環境を大切に守り、農業と観光リゾートを共に発展させることが必要です。そこから、新しいビジネスや生活スタイルをつくりだし、豊かになることを将来イメージとしています。

- ①農業においても、リゾート等多様なビジネスにおいても、自然環境を保全し持続的に活用する地区
- ②農業経営の新たなチャレンジに取り組む意欲的な農業地区
- ③農業者、移住者、国内外からのリゾート関連産業ビジネス従事者、リゾート客など多様な住民が地域づくり活動に取り組む地区

調査結果 1 : H22 年度町民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 川北地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、様々なご意見がありました。
 - ・宿泊施設間の連携事業が初めての試みとして行われ、リゾート環境の充実に向けて地域資源が見直されている。
 - ・高齢化が進む農業経営を改善するため、これまでのノウハウを生かし、TMR[※]の推進や、農家レストランの開業等、様々な事業が始まっている。
 - ・自然豊かなリゾート環境を好条件として、国内外のビジネスが起業もしくは立地する傾向が生じ、新たなコミュニティづくりに向けた模索が見られる。
 - ・大規模リゾート開発の実情について関心を深めた住民と開発者との自主的な話し合いが始まっている。
- 3) アンケート結果やヒアリング結果から、川北地区の重要課題を、次のように絞り込みました。

- ①大規模リゾート開発と土地利用
- ②農地の保全とリゾート開発
- ③森林と水の保全
- ④地域活動の活性化

良好な重点課題	居住地周辺の景観
	生活道路の整備状況
	健康づくりの仕組み
	高齢者の地域での見守り
	家庭における男女共同参画
	まちづくり基本条例の運用
評価が低く緊急性の高い重点課題	行政事務の透明性
	情緒豊かで礼儀正しい子
	学習意欲・自分で考える子
	幼・小・中・高校間の連携
	学校と地域の連携
	地域でいつでも学べる仕組み
	地域の学習活動リーダー
	町民のスポーツ施設
	文化遺産の発掘や保全活動
	町民の文化活動の活発度
	地域文化活動への行政支援
	森林など緑環境の保全
	土地利用
	歩いて楽しい道づくり
	ふれあいシャトルバス
	高齢者の防犯・防災
	農業等他産業と観光の連携
	大規模リゾート観光開発
農地の保全	
観光や農業などとの連携	
市街地の商店街	
情報共有の仕組み	
町の財政の健全化	
住民サービスと財政のバランス	

調査結果 2 : H23 年度住民アンケート調査の結果から

絞り込んだ重要課題に関連して、2回目のアンケート調査の結果は、次の通りです。

①川北地区の将来像

- ・「自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい」が最も多い割合（52.7%）となっています。大型リゾート建設の動きが見られる中で、自然環境を大切にしたいという地区の想いが提示されたものです。

②川北地区の農業の課題

- ・「高齢化した農家の農地の引継」が最も多い割合（28.6%）となっています。
- ・後継者のいない農家の農地は町が購入して、花畑にする等の観光展開すべきとの意見もありました。

③川北地区の観光リゾート開発の課題

- ・「水源地と周辺の土地の買い占め」（27.5%）と「土地の買い占め」（22.0%）が多い割合となっています。
- ・森林の皆伐や甘露の水の土地が買取られたこと等に危機感を示す意見が多い。

④そのほか（記述回答から）

- ・ゴミの不法投棄が心配、従来の住民と新住民の関係がぎくしゃくしてコミュニティの運営が難しくなっている、地域ボランティア活動に参加したくても仕事が忙しくてできない、等の意見があります。

調査結果 3 : 川北地区のまちづくり懇談会に於ける意見から

- ・川北地区をひとくくりにすることに無理がある。①ニセコ地区（畑作）、②モイワ・アンヌプリ地区（ペンション）、③曾我地区（畑作）の各地区で、後継者の実態、規模、コミュニティのあり方が違うので、突っ込んだ議論ができない。→今後、進めながら、より細分化していくことも検討したい。（ニセコ地区）
- ・東山地区は、全体的に道路が狭く、大型バスや農機具等のすれ違いができないところがある。リゾートと農地がある地区の特性だが、このままでは事故が起きるのではないかと気がかりだ。（曾我地区）
- ・宿泊体制について、ペンション等が連携して観光客に対応するよう取り組まないといけない。（曾我地区）

※注：TMR：

家畜に必要な栄養素を全て含んだ混合資料（Total Mixed Ration）を、複数の農家が共同で調達し畜産経営に供給する施設のこと。飼料費や農機具費を削減し、労力軽減につながるほか、新規就農者の育成等、人材育成にも寄与します。

4-2. 有島地区（有島）

有島地区 将来の方向性

相互扶助のまちづくりの実践を進める

有島地区は、有島武郎の相互扶助の精神を根付かせた地区です。有島武郎の思想を現代に伝える、歴史ある地区として、「相互扶助のまちづくり」を実践的に進めるモデル地域となることを将来イメージとしています。

- ①農業の新たな経営手法により、有島地区の原風景である農村景観を守る地区
- ②有島武郎の芸術と有島農場の歴史文化を継承し、新たに創造しつづける地区
- ③農村景観と歴史的景観を包み込む、自然環境と自然生態系を守り育てる地区

調査結果 1：第1回住民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 有島地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、様々なご意見がありました。
 - ・地区の農業者は高齢化が進み後継者もいないので、このままでは地区の農業も農村景観もなくなる。個人の努力を超えた状況なので、町等が介在して大きな方向性を出してほしい。
 - ・有島農場の歴史や有島記念館の存在が、地区の将来像にどのように関わるのか、なかなか見えてこないなので、町と地区住民が連携してあるべき姿を模索すべきだ。
 - ・地区の新住民も有島謝恩会に参加し、地区活動の維持に貢献しているので、新たなコミュニティ形成の可能性が見える。
 - ・有島地区の歴史や文化性を地域資源として、新たな体験参加型の文化交流イベントや地域づくり事業を興すべき。
 - ・町民や周辺で関心を持っている人たちに呼びかけて、有島武郎関連やその他の歴史芸術文化に関する住民活動を始めたい。
 - ・有島武郎の「相互扶助」の理念は、障がいのある人やその家族が支えあって自立して生きることを目指す上で、

良 好 な 重 点 課 題	居住地周辺の景観
	まちづくり基本条例の運用
	保育所・子育て支援センター等
	学習意欲・自分で考える子
	町民のスポーツ施設
評 価 が 低 く 緊 急 性 の 高 い 重 点 課 題	文化遺産の発掘や保全活動
	家庭における男女共同参画
	周辺の生活道路の除排雪
	高齢者の外出と社会参加支援
	国際化・情報化に対応する子
	町民の文化活動の施設
	河川環境の保全
	高速道路や新幹線の誘致
	段差などのバリアフリー
	イベントによる観光需要掘起し
	観光客への住民のおもてなし
	クリーン農業の展開
	行政情報の質の向上
	役場職員の能力向上
	学校と地域の連携
	地域でいつでも学べる仕組み
	地域文化活動への行政支援
	土地利用
	歩いて楽しい道づくり
	ふれあいシャトルバス
高齢者の防犯・防災	
大規模リゾート観光開発	
農地の保全	
観光や農業などとの連携	
市街地の商店街	
情報共有の仕組み	
住民サービスと財政のバランス	

深い共感を覚える理念である。

- ・カシュンベツ川に残る河跡を活用して、イトウの生息地とする住民による活動を進めたい。

3) アンケート結果から絞り込んだ有島地区の重要課題を、次の通りとしました。

- ①有島農場の歴史文化遺産の保全
- ②農地と農村景観の保全を図る土地利用
- ③地域活動の担い手
- ④有島武郎の文化の継承
- ⑤河川環境の保全

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

1) 絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査の結果は、次の通りです。

①有島地区の将来像

- ・「自然環境の豊かな地域の姿を最も大切にしたい」(33.3%) と「有島武郎や有島農場の芸術や歴史文化を伝える地域の姿を最も大切にしたい」(26.7%) が多い割合となっており、「農業地域としての地域の姿を最も大切にしたい」(13.3%) も有島地区の農業者の比率比べて多い割合となっています。これは、自然と歴史文化と農業を一体の地域特性として大切にしたいという意識の現れと考えられます。

②有島地区の農業の課題

- ・「農業後継者がいなくなった後どうなるのか」(30.0%) と「高齢化した農家の農地が適切に引き継がれるのか」(30.0%) が同率で強く懸念されています。

③有島地区の歴史文化の保全に向けた課題

- ・「有島謝恩会の高齢化に伴い、有島地区の文化遺産を継承する地域共同体が維持されるか」(30.0%) が最も多く、「相互扶助等有島武郎の思想や文学への関心が継承されるかどうか」(20.0%) が次いで多くなっています。

④その他（記述回答から）

現在のような農村景観と自然そして適度の集落の形成が良い、農業者のノウハウを継承するため行政が方策を示し農業者が選べる仕組みにすべき、有島地区は町全体の柱となる地域資源なので町の関与によって有島地区の歴史資産を継承すべき、有島武郎の農場として農業、観光、文化、福祉が一体となった落ち着いたバランスの良い地域形成をすべき、等の意見があります。

調査結果 3 : 有島地区のまちづくり懇談会に於ける意見から

- ・ 給食等で食材の地域内自給を高められないか。食材を雪氷倉庫等に備蓄できれば良いのでは。
- ・ 共同墓地の保全について検討してはどうか。

4-3. 市街地区（市街地、中央、本通）

市街地区 将来の方向性

市街地としてふさわしい、機能あるまちづくりを進める

市街地区は、住宅や商店、公共施設が集中している地区です。町の中心部としての機能を十分に果たし、町全体にとって利用しやすい公共的施設、町民やリゾート客等を対象とした商店街等、賑わいのある中心市街地とすることが将来イメージです。

- ① 駅前、綺羅街道、道道ニセコ停車場線それぞれの空間資源や個性的な施設群を互いに結び合わせて、中心市街地としての都市機能が一層充実する地区
- ② 国内外からのリゾート客や関連産業と連携して、小規模でも付加価値の高い商業等が集積する地区
- ③ 教育文化施設や商業施設等の利便性に富み、温かい人間関係にもとづくコミュニティが息づく快適な生活空間を有する地区

調査結果 1：第 1 回住民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 市街地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、様々なご意見がありました。
 - ・あそぶっくは、ニセコ町の文化拠点施設となる可能性を有しているが、図書館機能の面でも、文化活動の面でも一層の工夫が必要だ。
 - ・綺羅乃湯や駅前倉庫群を中心とする駅前空間の将来像を描くことは、ニセコ町の市街地全体に大きな影響を与える重要なプロジェクトである。
 - ・役場前の道道ニセコ停車場線の整備事業は、市街地商店街の今後の発展にとって重要な課題であり、沿道住民や関係者の合意形成をしっかりと進めるべきだ
 - ・市街地商店街の多くの商店に、リゾート客という大きな商機を積極的に活用しようという気概が感じられない。個店を結ぶ調整役を市街地全体で抱え、ネットワークとして商

良好な重点課題	居住地周辺の景観
	まちづくり基本条例の運用
	町民のスポーツ施設
	文化遺産の発掘や保全活動
	有島記念館の展示やイベント
評価が低く緊急性の高い重点課題	排水処理
	通信環境の整備
	学習意欲・自分で考える子
	高齢者の地域での見守り
	歩道などの安全性
	子育てできる職場環境
	担い手や後継者の育成
	幼・小・中・高校間の連携
	森林など緑環境の保全
	農業等他産業と観光の連携
	家庭における男女共同参画
	周辺の生活道路の除排雪
	高齢者の外出と社会参加支援
	高速道路や新幹線の誘致
	段差などのバリアフリー
観光客への住民のおもてなし	
学校と地域の連携	
地域でいつでも学べる仕組み	
地域文化活動への行政支援	
土地利用	
ふれあいシャトルバス	
高齢者の防犯・防災	
大規模リゾート観光開発	
農地の保全	
市街地の商店街	
住民サービスと財政のバランス	

店街を活性化する仕組みが必要だ。

- ・幼児センター、ニセコ高校、インターナショナルスクール等個性的な教育施設を繋ぎ、新しい町民センターやあそぶっく、有島記念館等も加えた複合的な教育学習環境づくりを進めることが、次世代のニセコ町民を育てるだろう。
 - ・市街地は都市空間としての秩序だった集積性が必要であるにも関わらず、リゾートからの余波を受け無秩序に開発される危険性があるので、都市計画の導入の是非について検討を始めるべきだ。
- 3) アンケート結果から絞り込んだ市街地区の重要課題を、次の通りとしました。

- ① 市街地商店街の活性化
- ② 市街地における土地利用
- ③ 相互扶助による高齢者の見守りと防災
- ④ 住民活動の活性化

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

1) 絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査をした結果は、次の通りです。

①市街地区の将来像

- ・「教育文化施設や福祉施設、行政施設等の公共施設が集積している地域の姿」(33.3%) と「綺羅街道等商業施設が集積している地域の姿」(27.6%) が近い割合で、中心市街地として都市機能の充実を目指す声が多くなっています。

②市街地区の商業集客機能の活性化にとっての優先課題

- ・「JR ニセコ駅前空間の再開発」(30.7%)、「綺羅街道の再活性化」(28.5%)、「役場前の停車場線の再開発」(22.4%) が僅差で並んでおり、市街地全体を見通した構想の必要性が示唆されています。

③市街地区の住宅政策

- ・市街地の住宅政策については、「民間が建てた住宅を公共が借り上げる」(30.7%)、「公営住宅の建設と供給」(27.6%)、「民間による住宅供給システム」(25.4%) がほぼ同じ割合となっていて、明確な方向性が見えていません。

④活用したい市街地の地域資源

- ・「駅前倉庫群」(32%)、「綺羅街道」(30.7%) を活用すべきという意見が多い状況です。

調査結果 3 : 市街地区のまちづくり懇談会に於ける意見から

- ・春から夏にかけて、家に物売りに来る人が多くなり、高齢者は不安を感じて鍵をかけて出てこない。地域の繋がりが薄れ、益々交流が少なくなった独居高齢者がかなり増えている。だいたい様子や雰囲気はわかるので時々声をかけるようにしている。親戚の方が

時々見守りに訪れたりヘルパーさんが回ったりしているが、高齢者の引きこもり傾向は改善されていない。孤独死が心配なので、緊急通報システムのようなものがあると良い。

(本通地区)

- ・ 高齢者の中には、買い物のために倶知安に行く人もいるが、辛いという声が多い。バスにも乗れず介護が必要な人の買い物支援をどうしたらよいのか。市街地でも、高齢者の中には、病院や買い物が利用目的でデマンドバスへのニーズがある。(本通地区)

- ・ 中央地区駅前倉庫群の計画について、民間の活力を利用し、景観や川等を生かし、子どもたちが遊べる緑地を作ることも視野に入れ、いろいろな可能性を考える必要がある。

(中央地区)

- ・ 有休農地を利用し、グリーンツーリズム（貸し畑等）の拡大を図るべき（中央地区）

- ・ 社会教育について、自分でテーマをつくり研究し学習するようなシステムが必要だ（中央地区）

- ・ 地区の民生委員は、高齢者のお宅ごとにカルテを袋の中に入れて冷蔵庫に掛ける等の仕組みを検討している（中央地区）

- ・ 高齢者の見守り等については、声かけ等は特にしていないが、普段の付き合いの中で気を使っている（中央地区）

4-4. 東部地区

東部地区 将来の方向性

農村コミュニティを発展させ、さらに絆を深める

東部地区は農村地域でありながら、近藤小学校や道の駅ビュープラザがあり、交流活動が活発な地区です。核となる施設を中心として、地域内に居住する人たちの交流を通して、絆を深めると共に町の交流活動のモデルとなることを将来イメージとしています。

- ①羊蹄山麓の豊かな自然環境を生活圏とし、地域コミュニティを育む地区
- ②農業者の高齢化と後継者不足にあって、環境をブランドのキーワードとする新しい農業経営のあり方を模索する地区
- ③近藤小学校を地域コミュニティの絆に、さまざまな交流活動や地域活動、文化活動が地区を元気にする地区

調査結果 1 : 第 1 回住民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 東部地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、様々なご意見がありました。
 - ・地区の農業者と移住してきた新住民が近藤小学校の行事や施設利用を共にすることによって、コミュニティの活性化をもたらした
 - ・地区の農業者は、規模拡大に限界を感じており、むしろ環境をキーワードとする農産物のブランド化に向けて工夫する傾向が多くなっている
- 3) アンケート結果から絞り込んだ東部地区の重要課題を、次の通りとしました。

- ① 地域と学校の連携
- ② 高齢者の見守りと防災
- ③ 森林等緑環境の保全
- ④ 公共交通機関の充実
- ⑤ 農地と農村景観の保全と土地利用
- ⑥ 有島武郎の文化の継承

良好な重点課題	居住地周辺の景観
	まちづくり基本条例の運用
	町民のスポーツ施設
	保育所・子育て支援センター等
	生活道路の整備状況
	有島武郎の歴史文化等継承
	ニセコらしい農村景観
	歩道などの安全性
評価が低く緊急性の高い重点課題	家庭における男女共同参画
	周辺の生活道路の除排雪
	町民の文化活動の活発度
	町の財政の健全化
	クリーン農業の展開
	行政情報の質の向上
	観光や農業などとの連携
	学習意欲・自分で考える子
	高齢者の地域での見守り
	子育てできる職場環境
	幼・小・中・高校間の連携
	森林など緑環境の保全
高速道路や新幹線の誘致	
学校と地域の連携	
地域でいつでも学べる仕組み	
地域文化活動への行政支援	
土地利用	
ふれあいシャトルバス	
高齢者の防犯・防災	
農地の保全	
市街地の商店街	
住民サービスと財政のバランス	

⑦ 地域活動の活性化

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

1) 絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査結果は、次の通りです。

① 東部地区の将来像

- ・ 「自然環境の豊かな地域の姿」(33.9%) と 「地域と学校等住民が交流できる場としての地域の姿」(32.1%) がほぼ同じ割合となっており、自然環境に憧れて移り住んだ住民と自然の恵みによる農業を営んでいる住民が、交流を深めてともに地域活動を楽しむ現状の様子が将来像に投影されているようです。

② 東部地区の農業の課題

- ・ 「高齢化した農家の農地が適切に引き継がれるかどうか」(25.0%)、「農家の後継者不足が解消されるかどうか」(19.6%) が多い割合となっていますが、「わからない」が 33.9%にも及び、最も多い割合となっています。農村地帯としては他の地区と同様の課題ですが、非農家の住民の割合が多いことの反映と思われる。

③ 活用したい近藤地区の地域資源

- ・ 「山や森の自然景観」(26.8%)、「地域住民の団結力」(17.9%) が上位となっているのは、「近藤地区の将来像」と同様の傾向です。近藤地区の個性が明確に表現された結果といえます。

調査結果 3 : 東部地区のまちづくり懇談会に於ける意見から

- ・ 東部地区のスクールバスのバス停の位置が、冬非常に危ない。バス停の変更あるいは歩道の早期除雪等対応策はないか。バス循環のルートを逆にしてはどうか。(近藤地区)
- ・ 羊蹄近藤連絡船の改修工事の件で、沿道 4 戸への説明がなかったことについて、今回は住民意見を聞くための説明会であり、意向を聞いてから図面を作成する予定であった。地域の意向で変更は可能なので、地域で話し合っ方針を出してほしい。(近藤地区)
- ・ 市街地全体として、役場庁舎や公共施設の場所がバラバラでランドデザインができていないことについて、今後に向けた長期的なまちづくり課題として検討すべきだ。町民一人一人も、大きな視野で考える必要がある。→ 今後はしっかりとしたビジョンを作りたい。総合計画を含め、来年度に全体的な絵を描きたい。(近藤地区)
- ・ コミュニティセンターの隣にある元町神社の西側に、地区の人が町に寄付した約 4,000 m²の土地がある。せっかく地域のためにと寄付された土地なので、町の方で何に利用できるか考えてほしい。地域として具体的なリクエストは無い。→ 地区で考え実現していくテーマとして今後取り上げてはどうか(元町地区)

4-5. 南西地区（里見、宮田、福井、西富）

南西地区 将来の方向性

自然環境と調和した、農村コミュニティの里づくりを進める

南西地区は、農業が主体の自然豊かな、落ち着いた地区です。豊かな自然環境と風光明媚な農村景観の中で、地域にしっかり根付いたコミュニティを基礎に、力強い、持続力のある農業地域となることを将来イメージとしています。

- ①高齢化と後継者問題を課題の両輪として、農業地帯として持続できるあり方を探る地区
- ②山や森等の自然環境は、環境をキーワードとするニセコ農業のブランド化にとって欠かせない条件であり、農業と一体的な保存のあり方を探る地区
- ③温かい人間関係に支えられたコミュニティが、地区住民の子育てや高齢者の生活を見守る地区

調査結果 1：第 1 回住民アンケート調査とヒアリング調査から

- 1) 南西地区の住民が重視している項目は、右の一覧表のとおりでした。
- 2) 地区住民からのヒアリングにおいても、様々なご意見がありました。
 - ・高齢者世帯は外出や交流の機会が少なくなって孤立する傾向が強いので、時折訪問し見守りの気持ちを伝えることが大事だ。改まった訪問より、気軽にお互いが信頼関係を築くようなネットワークキングが必要だ。
 - ・農業経営の大規模化は、農家の力から言って既に限界に来ている。後継者のいない農家が多いので、経営者の高齢化が今以上に進むと、個人農家としては先が見えなくなる。法人化が理想だが、しかし、それも非常に難しいことだ。
 - ・森林組合の組合員の多くは山持ちの農家だが、高齢化や後継者難等で、森を育てる余裕がないのが実情。若い人たちがボランティアで参加してくれると有難い。

良 好 な 重 点 課 題	まちづくり基本条例の運用
	町民のスポーツ施設
	歩道などの安全性
	周辺の生活道路の除排雪
	排水処理
	通信環境の整備
	二酸化炭素削減の取組
	道の駅のショッピングエリア
	情緒豊かで礼儀正しい子
	住民に対する行政の対応
評 価 が 低 く 緊 急 性 の 高 い 重 点 課 題	住民参加のしやすさ
	高齢者の外出と社会参加支援
	文化遺産の発掘や保全活動
	子育ての悩みの相談の仕組み
	地域で青少年の健全育成
	地元消費者や他産業と連携
	役場職員の能力向上
	町民の文化活動の活発度
	町の財政の健全化
	クリーン農業の展開
	行政情報の質の向上
	高齢者の地域での見守り
	子育てできる職場環境
	幼・小・中・高校間の連携
森林など緑環境の保全	
高速道路や新幹線の誘致	
地域でいつでも学べる仕組み	
土地利用	
ふれあいシャトルバス	
高齢者の防犯・防災	
農地の保全	
市街地の商店街	
住民サービスと財政のバランス	
農業等他産業と観光の連携	
大規模リゾート観光開発	

3) アンケート結果から絞り込んだ南西地区の重要課題を、次の通りとしました。

- ① 道の駅や直売所の活性化
- ② 高齢者の外出支援
- ③ 子育ての悩みの解消
- ④ 地域活動の活性化
- ⑤ 森林等緑環境の保全と土地利用
- ⑥ 農地保全と土地利用
- ⑦ 農業と観光の連携

調査結果 2 : 第 2 回住民アンケート調査の結果から

1) 絞り込んだ重要課題に関連して、2 回目のアンケート調査をした結果は、次の通りです。

①南西地区の将来像

「農業地域としての地域の姿」(46.6%)と「自然環境の豊かな地域の姿」(37.9%)が多く、農業地帯と自然環境の持続に将来像を託していることが伺えます。

②南西地区の農業の課題

「高齢化した農家の農地が適切に引き継がれるかどうか」(29.3%)と「農家の後継者不足が解消されるかどうか」(27.6%)がほぼ同じ割合で課題の中心となっています。これらの課題は他地区の農業課題とほぼ同様であり、ニセコ町農業の問題として今後の方向性に対し大きな政策的決断が求められているとも言えます。

③活用したい南西地区の地域資源

「農村景観」(41.4%)と「山や森の自然景観」(34.5%)が多く、①の回答状況と同じく、農業と自然保全による将来への可能性を示しています。

調査結果 3 : 南西地区のまちづくり懇談会に於ける意見から

- ・ 地域活動として、町に予算が不足している場合は、予算が無いなりの工夫があるはず。地域住民に頼んで協力してもらうこともこれからは必要だ。何でも町の予算で業者に頼むのではなく、みんなで協力できるところを見つける努力も大事だ。(里見地区)
- ・ 都市住民との交流について都会の子どもを受け入れるのは安全面で難しい。(宮田地区)
- ・ 除雪が業者委託方式になってから、町直轄方式より不備が目立つ。しかし、業者も悩みながら試行している面もある。住民と業者と行政が情報交換してより良い方法を探る等の手法があっても良い。(福井地区)
- ・ 南西部のビジョンとして、高齢者の外出支援、子育ての悩みの解消、地域活動の活性化等をきちんと追加すべきだ。(福井地区)
- ・ 地域活動の活性化については、地区ごとに異なる要因や背景等を探っておくことが必

要だ。(福井地区)